

## 高等学校における『個別の指導計画』作成のための参考資料

本資料は、高等学校における『個別の指導計画』を作成するにあたり、アセスメントや記入の際の参考となるよう作成したものです。

配慮や支援を必要とする生徒に見られやすい学習や行動等の特徴を、3つの観点で整理していますので御活用ください。

なお、本資料の記述の仕方としては、実際の学習場面や生活状況に即したものにしているため、肯定的な表現ではありません。作成の際には、生徒の良い面や得意な面も併せつつ、作成してください。

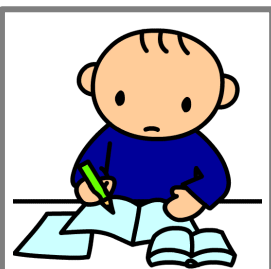
### 学習面

よくある生徒の様子や実態	具体的に把握し、表記したい様子や実態
①聞き間違いがある。	⇒「知った」を「行った」と聞き間違える。
②聞きもらしがある。	⇒ゆっくりだと聞きとれるが、説明が速いと内容を聞き落とすことがある。
③個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。	⇒全体の場での指示では、内容が伝わっていなかったり、指示を聞き逃したりすることが多い。
④指示の理解が難しい。	⇒聞いているのに指示が理解できない。注意力の課題ではなく、理解力に課題がある。
⑤話し合いが難しい。	⇒話し合いの流れや内容が理解できず、ついていけない。
⑥ことばにつまったりする。	⇒考えていることを話すとき「その」「あの」となったり、言い間違えたりする。
⑦単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をしたりする。	⇒助詞の間違いや、その他文法的に誤りの多い話し方をする。
⑧音読がたどたどしい。	⇒文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする。
⑨文章の要点を正しく読みとることが難しい。	⇒文章を読んで内容を理解するのに時間がかかる。
⑩読みにくい字を書く。	⇒字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない
⑪漢字の細かい部分を書き間違える。	⇒線や点が多いまたは少ない、不要な箇所につきぬけるまたはつきぬけなかったりする。
⑫数の意味や表し方についての理解が難しい。	⇒三千四十七を300047 や347 と書く、分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている。
⑬文章題を解くのが難しい。	⇒文章題の内容をつかめない、どのように式を立てて考えればよいか見当がつかない。
⑭量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい。	⇒長さやかさの比較や「1 g/cm <sup>3</sup> 」「15cm は150mm である」など単位の意味理解が難しい。
⑮見取り図や展開図などの図形を描くことが難しい。	⇒板書をノートに写す時にどこから書けばよいか分からない、黒板とノートを見比べられない。

## 生活面・行動面（注意のかたむけ方や衝動性について）

よくある生徒の様子や実態	具体的に把握し、表記したい様子や実態
①不注意な間違いをする。	⇒はやとちりをする、うっかりミスや誤字・脱字が多い。
②集中し続けることが難しい。	⇒外の風景や他人の声で集中がとぎれる、1時間の授業を集中して受けられない。
③授業中や座っているべき時に席を離れてしまう。	⇒実技系の授業のときなどにじっと座ってられず、あちこちうろろしている。
④面と向かっているのに、聞いていないようにみえる。	⇒他のことに気を取られていたりする。聞いたばかりの指示をもう一度聞き返すことが多い。
⑤指示に従えない。また課題や仕事を最後までやり遂げない。	⇒途中で飽きる、他のことを始めてしまうため最後まで終わることができない。
⑥余暇活動に適切に参加することが難しい。	⇒必要以上に騒いでしまう、静かにできない。
⑦学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい。	⇒目的に沿って行動を計画したり、効率的に物事を進めたりすることが難しい、段取りが悪い。
⑧じっとしていない。	⇒体のどこかを動かすことで落ち着く、動いてはいけない場面で動いてしまう。
⑨過度にしゃべる。質問が終わらないうちに答えてしまう。	⇒あまりにうるさくて注意されることが多い、自分では止められない様子がある。
⑩物をなくしてしまいやすい。	⇒忘れ物や紛失物が多い、物をどこに置いたかわからなくなる、整理整頓が苦手。
⑪順番を待つのが難しい。	⇒会話の流れを気にせず割り込んでしまう、口をはさむ。
⑫日々の活動で忘れっぽい。	⇒約束した時間に遅れる、諸手続の期日や課題の提出日を忘れる。

### 情報コラム①



～こんな場合には、こんな支援はどうでしょうか ①～

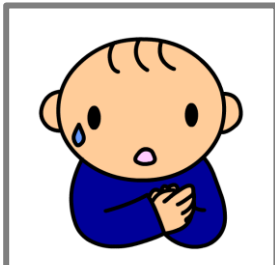
『板書に時間がかかる』…「見ること」「書くこと」への支援や配慮が必要なのかもしれません。  
○板書の行をそろえる、ポイント事項は枠で囲む、横長（黒板に近い形）ノートを使用させる、など。

また、『集中しにくい』や『うっかりミスが多い』生徒のいるクラスでは、しっかり集中して学習に打ち込めるための支援として、授業中の『読む』『聞く』『書く』『話し合う』といった学習活動を分ける（授業中に指示をしない等）もあります。

生活面・行動面（対人関係・社会性・コミュニケーション等）

よくある生徒の様子や実態	具体的に把握し、表記したい様子や実態
①大人びた様子、もしくは丁寧すぎる態度である。	⇒難しい言葉をよく使う、形式ばった感じ、行動が年相応ではない。
②特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記である。	⇒辞書的な知識で、応用が利きにくい。知識のかたよりが非常に大きい。
③含みのある言葉や嫌みといった表現をそのまま受け取る。	⇒冗談や比喻、皮肉が分からない。他の人が考えていることを理解するのが苦手。
④会話の仕方が形式的である。	⇒会話が一方的でうまく続かない、相手が不愉快になることが多い。
⑤独特な声で話すことがある。	⇒必要以上に大声で話すなど、受け手や周囲の状況を意識していないように見える。
⑥誰かに何かを伝える目的がなくても、関係なく声を出す。	⇒唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶなど。
⑦とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。	⇒数学は得意だが、古文が非常に苦手である。読解は得意だが、レポートが書けない。
⑧相手の感情や立場を理解しないような言動がある。	⇒相手の反応に関係なく自分の興味のあることを話し続ける、配慮のない発言をする。
⑨共感性が乏しい。	⇒みんなと笑いがずれる、一緒に協力すること、会話することを楽しさを見出せない。
⑩友達関係をうまく築けない。同年代の集団に入りにくい。	⇒友だちは欲しいが、距離が近すぎる、なれなれしい。もしくは、非常に消極的である。
⑪常識が乏しい。	⇒借りたものは返す、試験は静かに受けるなどの社会的ルールが身につけていない。
⑫共同の作業で、仲間と協力することが不得手である。	⇒連係プレイができない、ルールがきちんと理解できない。
⑬ある行動や考えに強くこだわる。	⇒気持ちの切り替えがうまくいかず、自分の納得がいくまで次のことができない。

情報コラム②



～こんな場合には、こんな支援はどうでしょうか ①～

『パニックを起こす』…激しく暴れてしまうこともあります。静かなパニック（頭が真っ白になる）もあります。  
 ○本人と周囲の安全面への配慮を第一に、「その場から離れる」「静かな場所で過ごさせる」などし、生徒が落ち着いてから指導することが大切です。

その後、なぜパニックが起きたのかその状況や理由を整理して、パニックを起こさないための環境づくりをします。

『レポートの期限が守れない』生徒のなかには、「中途半端では出せない（完璧主義）」と考えている場合もあります。途中までのレポートでも、出さないより出した方が評価が高いなど、具体的な評価指標を示すことも有効です。

## 【参考文献】

- ・「児童生徒理解に関するチェックリスト」 2002年 文部科学省
- ・「生徒指導提要」 2010年 文部科学省
- ・「特別支援教育発展ガイド」 2008年 京都府教育委員会
- ・成山治彦 有本昌剛 編著 「こうすればできる\_\_高校の特別支援教育」 2012年 明治図書
- ・すぎむらなおみ+「しーとん」 「発達障害チェックシートできました」 2010年 生活書院
- ・「edu (エデュー) 2010年10月号 東大生の小・中学生時代のノート 121冊」 2010年 小学館
- ・井上雅彦 監修 「子育てに活かす ABA ハンドブック」 2009年 日本文化科学社
- ・齋藤万比古 編著 「発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート」 2009年 学習研究社
- ・小泉令三 編著 「図説 子どものための適応援助」 2006年 北大路書房
- ・「こころのりんしょう vol25.No2 アスペルガー障害」 2006年 星和書店
- ・田中千穂子 他 編 「発達障害の心理臨床」 2005年 有斐閣アルマ